

町おこしに、カヌーが大活躍！

邑智町 B&G 海洋センター（島根県）

ある1つの出来事がきっかけになって有名になる町や村があります。島根県邑智町も、その良い例で、昭和57年の島根国体で町内のダム湖がカヌー競技の会場に指定されことをきっかけに、町ぐるみでカヌーが親しめる環境づくりに着手。すると、県内外から多数のカヌー愛好家が訪れるようになって、町の名は全国的に知られるようになりました。カヌーの普及は、平成4年に邑智町 B&G 海洋センター艇庫が建てられてから拍車が掛かり、いまでは艇庫を中心にカヌー工房やカヌー博物館といった周辺施設が整備されて、「カヌーの里」という名の総合施設として全国のカヌー愛好家から親しまれています。



吉川 肇 邑智町教育委員会 教育長

毎年、全国からカヌー研修生を公募する町

中国地方屈指の大河、江の川が町内を蛇行している島根県邑智町。かつては、台風などによる水害が発生して住民を悩ませていましたが、ダムによる治水が進むにつれて、その記憶はしだいに過去のものになっていきました。そして、昭和57年の島根国体では、町内のダム湖がカヌーのフラットウォーター競技に適していることが分かり、その豊かな水資源が国体のカヌー競技に活かされることになりました。水害を生んだ川がスポーツ施設として脚光を浴びるなど、昔は誰が想像したのでしょうか。まさに、目からウロコの大発見でした。国体のカヌー競技はこの大会から正式種目になったので、邑智町が国体カヌー発祥の地として歴史に名を刻むことにもなりました。

「大会終了後、せっかくダム湖にカヌー競技の会場が作られたのだから、今後も町をあげてカヌーに力を入れて行こうと町長が声をあげ、議会の賛同も得ることができました。カヌーによる町おこしというわけです」

フラットウォーター競技に適しているダム湖のほかにも、町内をゆっくり蛇行する江の川にはツーリングやスクールに最適な水面が随所にあります。町長をはじめ議員の多くも、安心して遊べる環境さえ整えれば多くの人々がカヌーを乗りこに町にやってくると確信したのでした。

そのアイデアをかたちにするために必要だったのが、B&G 海洋センターの誘致でした。

「当初、海洋センターはプールのみの話だったのですが、町ぐるみでカヌーに力を入れているので、ぜひ艇庫もお願いし、財団に承認していただきました。艇庫が完成するとB & G財団からたくさんのカヌーを頂戴することもできましたので、いまでも本当に感謝しています。この艇庫がなかったら、カヌーの町としての発展はなかったと思います」

邑智町 B&G 海洋センターは平成4年に竣工。その後、艇庫の周辺には冒頭で述べたように「カヌー工房」や「カヌー博物館」といったカヌー関連施設が建てられ、「カヌーの里」として町を代表するスポーツ文化施設に拡大しています。



カヌー博物館には、いろいろなカヌーが展示されています



カヌー工房やカヌー博物館を備えた「カヌーの里」

「カヌー工房では、訪れた人がスタッフの指導を受けながらカヌーの自作が楽しめますし、カヌー博物館に行けばさまざまなカヌーと出会うことができます」

同町では毎年、全国からカヌー研修生を公募し、2名を採用して「カヌーの里」のスタッフとして働いてもらっています。まさに、カヌーの普及に対する努力は全国規模の展開となっており、研修生活を終えた後で町に定住する人も出てきました。

「邑智町のホームページをご覧になれば分かりますが、『カヌーの里』では現在、各種カヌースクールをはじめ、江の川はもちろん他県の川を含めたツーリングの企画など、さまざまなカヌー関連イベントを企画しています」

こうした努力の結果、カヌーを積んだ他県ナンバーのクルマが数多く町を訪れるようになり、町の名物イベントの1つである「カヌー駅伝」のときには、参加者やその家族などが全国から集まって町の人口が一気に増えます。ちなみに、「カヌー駅伝」は町の教育委員会が企画しているもので、吉川教育長自らが実行委員長として現場を指揮するそうです。

「カヌー競技はスポーツ全般から見ればマイナーですが、駅伝は楽しいですよ。このときばかりは参加者一同、運営スタッフもまじえて大いに盛り上がります。また、『カヌー駅伝』をはじめ、身体障害者の方々を対象にした全国パラリンピック・カヌー大会など、さまざまなカヌーのイベントが行われていますから、住民の間にもカヌーの町という意識が根付いて活力が出てきました。もともと、山間に位置して観光資源のない土地でしたが、

まさにカヌーによって町が生まれ変わった感じです」

海洋センター艇庫が、こうした事業の拠点になっていることは言うまでもなく、ちなみに平成 15 年度における艇庫利用率の高さにおいて、邑智町 B&G 海洋センターは全国 3 位の実績を上げました。

高齢者の方々にもカヌーに乗ってもらいたい

艇庫が高い利用率を誇っている理由の 1 つには、同町に 6 つある小学校すべての児童が体育の授業でカヌーに乗っていることが挙げられます。

「毎年、約 200 名の児童が交代でカヌーに乗っている計算になります。ただし、中学に進学すると野球やサッカーのような全国的にメジャーなスポーツに目が移ってしまうのも事実で、私の前任者の時代から教育委員会が中学校に呼びかけてカヌー部をつくろうと努力を続け、ようやく昨年、発足できたところでした。現在、部員は 5 名ほどですが、カヌーのコーチを雇ったり、島根国体で優勝することができた邑智高校の先生にもご協力いただいたりしながら力をつけているところです」

普及はもちろんのこと、カヌーの町なのだからトップレベルの選手も育てたいと吉川教育長。野球などに比べて新しいスポーツなゆえに、なかなか中学校にカヌー部ができなかった悩みからも、ここに来てようやく解放されることになりました。

「カヌーの話ではないのですが、悩みと言えバプールの問題に苦慮しています。実は、今年 4 月に 6 つの小学校が 1 つに統合することになっており、公認プールのある小学校が解体されようとしています。毎年、ここで水泳の記録会を行っていたのですが、それができなくなってしまうわけです。そのため、海洋センターのプールを公認していただこうと考えたのですが、最近の公認条件に照らすと若干ですが規格が合いません。飛び込み台の高さやプールの深さといった些細な部分なので、なんとか公認していただけないものかと考えており、ぜひ財団のお知恵も拝借したいと願っています」

川で苦勞し、川で栄えてきた町だから、水との関わりを大切にしていきたい。そのためにも、毎年続けてきた水泳の記録会の火を絶やしたくないと吉川教育長は力説しました。

「また、島根県の高齢化率は全国一で、邑智町でも 40% と高い数字を示しています。川の町ですから、お年寄りの多くは水を怖がりませんが、カヌーは新しいスポーツですから親近感がなかなか芽生えません。現在、カヌーに乗っている最高齢は 50 歳代の方々ですから、もう少し年齢の高い方々にもカヌーに乗っていただきたいですね」



邑智町を流れる江の川はツーリングに最適なグレンデになっています

吉川教育長は、高齢者でも無理なく乗れるメニューを何か考えたいと語っていました。そうすると、小学生からお年寄りまで実に幅広い年齢層の住民がカヌーに親しむようになり、まさしくカヌーの町として全国にその名を轟かせることになるでしょう。

※写真提供：邑智町ホームページ